

新型コロナウイルス感染症の影響下における地域活動の在り方 に関するアンケートについて

1 調査の目的

新型コロナウイルス感染症の拡大期以降の地域活動の状況について、現状や課題等を把握し、代表者会議で共有し、皆様の地域活動の参考としていただくとともに、次期地域コミュニティ活性化推進計画の策定や地域コミュニティ支援策の検討に当たっての参考とする。

(調査時期：令和2年7月，対象者：各市区政協力委員連絡協議会代表者 39名)

2 アンケート結果

- (1) 新型コロナウイルス感染症の拡大期以降，地域活動に影響は出ていますか。
全ての方が「影響を受けている」と回答されている。



- (2) どのような影響を受けたのか，また，生じた課題を教えてください。

会議の中止に関すること，多数の人が集まる活動の中止，交流する機会の減少に関することの回答が多く，それぞれ回答者の約7割が記述されていた。

(主な回答)

【会議の中止に関すること】

- ・ 定例総会等の会議が中止となり，書面による表決となったが，今年4月から就任の委員等については，顔も見えず，生の声も聞こえずで大変残念に思った。
- ・ 新町内会長と自治連役員との顔合わせの機会がなくなり，十分な意思疎通を欠いているように思われる。
- ・ 会議は中止し，配布物だけ引き取りにきてもらうようになった。

【多数の人が集まる活動の中止，交流する機会の減少に関すること】

- ・ 学区の主な年間事業，「夏祭り」「敬老会」「体育祭」など大きなイベントが中止，また，町内会等の地域の事業「地藏盆」「レクリエーション」も中止となり，コミュニケーションが図れなくなり，今まで築き上げた絆が失われるのではないか心配の声が大きい。
- ・ 敬老会は景品を渡すだけの活動に縮小した。
- ・ 地域住民は，コロナに対する不安，外出自粛によりストレスを抱えている。

(3) 影響を受けた事柄や生じた課題について、工夫されたこと、今後工夫しようと考えていることがありましたら、教えてください。

会議の工夫に関するものの回答が最も多く、回答者の約6割が記述されていた。次いで、イベント・行事の工夫に関するもの、地域内の連絡手段の見直しに関するものの回答が、それぞれ回答者の約2割が記述されていた。

(主な回答)

【会議の工夫（書面開催，少人数開催，開催回数を減らす等）に関するもの】

- ・ 3～5月の会議が中止（延期）となったため、書面決議を行った。
- ・ 書面会議の場合、意向やお願いが伝わりにくいため、書面会議用の回答用紙を作成して、学区内既存の「ポスト」に投函をお願いした。
- ・ 書面や情報機器で伝わらないことは電話で連絡し、理解を得た。
- ・ 書面では説明できない事案も多く、三密を避けた会議を実施している。
- ・ 6月に、人数を絞り感染拡大防止対策（換気，一方向で着席等）を取りながら会議を実施した。
- ・ 当面、審議事項等は、三役会（会長，副会長，会計）で話し合い、決定することになっている。
- ・ 定例的に開催していた理事会を、必要な時にのみ開催するよう見直した。
- ・ 自治会館で開催する会議は、5月末から小学校体育館で長椅子に1人ずつ座って行っている。
- ・ 役員会議はLINE会議で実施している。
- ・ 会議が中止となったため、役員は前年度からの者が継続するよう工夫した。

【イベント・行事の工夫（従来と違う手法での開催等）に関するもの】

- ・ チラシを回覧し、コロナに負けずに頑張ろうと呼び掛けた。
- ・ 未加入者にも、自治会加入の呼びかけとコロナに対する啓発を実施し、新たな加入者を呼び込むことができた。
- ・ 封筒に入れたマスクを全世帯に2枚ずつ配布し、大勢の方に喜んでいただいた。
- ・ 福祉活動について、電話や、訪問しても戸内に入らず声掛けするようにしている。
- ・ イベントは、開催場所を分散し小規模で複数回に分け、会場で3密警告チラシによる啓発を行ったり、マスクを準備するなど工夫して開催した。
- ・ 防災訓練は数百名の人数になるのでできないが、町内会長，各種団体長のみでコロナ禍での避難所の開所運営訓練をしようと計画している。
- ・ 体育祭は、体育祭の形式は取らないが、ウォークラリー等別の形態で行う予定である。

【地域内の連絡手段の見直し】

- ・ 電話やメール，ラインなどを活用した取組を行いたい。
- ・ 配布物の引き取りは欠かせないものなので、月1回程度行う予定である。LINE等の活用も考えたが、行き届かずにいる。

(4) 新型コロナウイルス感染症の影響下で地域活動を継続するに当たって、本市からどのようなサポートがあると良いと思われますか。

(主な回答)

- ・ 消毒液やマスクの提供、既に自治会で購入した物品に対する補助金がほしい。
- ・ コロナ対策用品を提供してほしい。
- ・ 新しい取組に必要な経費をサポートしてほしい。
- ・ スマートフォン等情報機器の活用等、従来の活動方法を見直すためのサポートをしてほしい。
- ・ 活動マニュアルを作成し、各家庭での保管用として配付してほしい。
- ・ 今後の自治活動の在り方に対するアドバイス、積極的な情報の提供等をお願いしたい。
- ・ 新たな活動方法についてのアイデアを紹介してほしい。
- ・ 行政から、地域が主催する事業について、感染予防対策を講じてもらっているから、参加しようと呼び掛けてほしい。
- ・ 主催者側の思いだけで事業を実施していると誤解されるため、行政から「感染防止対策を十分にしている」との証明書を発行してほしい。
- ・ 「三密を防ぐ」「ソーシャルディスタンスをとる」等のあいまいな表現でなく、しっかりした数値や明確な指示をお願いしたい。
- ・ 新型コロナウイルスの状況下で、色々な場面で市にお尋ねすることがあるが、引き続き、適切な指導や助言をお願いしたい。

地域活動に関するアンケートについて

1 調査の目的

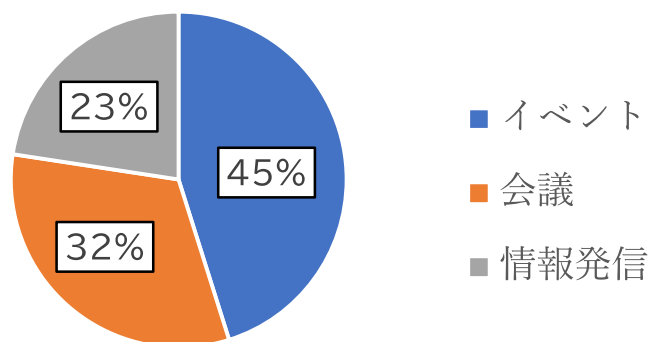
新型コロナウイルス感染症の拡大期以降の地域活動や良好な地域コミュニティづくりに係る取組について、現状や課題等を把握し、代表者会議で共有し、皆様の地域活動の参考としていただくとともに、地域コミュニティ活性化ビジョンの策定や地域コミュニティ支援策の検討に当たっての参考とする。

(調査時期：令和3年7月，対象者：各市区政協力委員連絡協議会代表者39名)

2 アンケート結果

(1) 地域活動においては、昨年度から引き続き、会議を書面決議にされたり、地域の運動会等のイベントが中止になる等、新型コロナウイルス感染症の影響を受けていると聞き及びますが、影響を踏まえて工夫して開催された事例や見直しを行った取組（予定）等がありましたら、教えてください。

イベント・行事に関する内容が最も多く回答の約5割，次いで，会議に関する内容について，回答の約3割に記述されていた。情報発信に関する内容が回答の約2割，記述されていた。



(主な回答)

【イベント・行事に関すること】

- ・ 防災訓練内容を見直し，参加者を自主防災会役員だけに絞り，訓練内容を受付方法等の確認等のみにするなど，できるだけ非接触型にして実施した。
- ・ 児童館やURの広場において，密にならない形で小規模な自治会員勧誘の取組を行った。
- ・ 夏祭りはやむを得ず中止としたが，感染拡大防止対策が講じやすい，コンサート形式でのイベント開催を予定している。
- ・ お祭りの形式を見直し，動画投稿を中心とした事業を実施した。
- ・ コロナ禍における避難所運営の勉強会を行った。
- ・ イベントや行事はすべて中止している。

【会議に関すること】

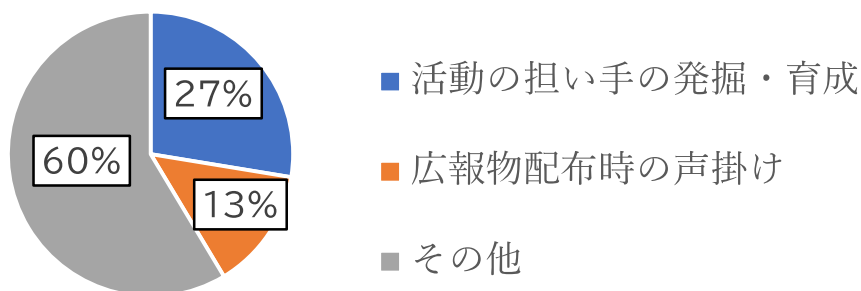
- ・ 会議をする際は、委員会や部会、地区ごとに分ける等、人数を絞っている。
- ・ 書面では意思疎通が難しいため、感染拡大防止対策（検温、消毒、広い会場の使用、換気の徹底、マスク・フェイスガードの着用等）を十分に考慮して対面の会議を行った。
- ・ LINE等を活用して、オンラインで連絡会議を行った。
- ・ 連絡協議会を中止し、役員会の内容や例年の配布物、確認事項等を記載したレジューメを役員が各委員宅に持参し、個別に説明した。

【情報発信に関すること】

- ・ グループLINEやLINEオープンチャットを活用し、こまめな情報発信・共有を行っている。
- ・ 自治会でブロック分けした地区の町内会長代表が地域の要役として、こまめな情報発信と収集を行っている。
- ・ 地元の社会福祉協議会では高齢者のひきこもり対策として、クイズやコロナ対策、詐欺対策等を記載した情報チラシを宅配している。

(2) 市政協力委員としての活動をはじめ、良好な地域コミュニティづくりや、組織・活動を将来にわたって持続的に活動していくために、取り組まれていることがありましたら、教えてください。

活動の担い手の発掘・育成に関することが全回答のうち約3割、広報物配布時の声掛けに関することが全回答のうち約1割、記述されていた。



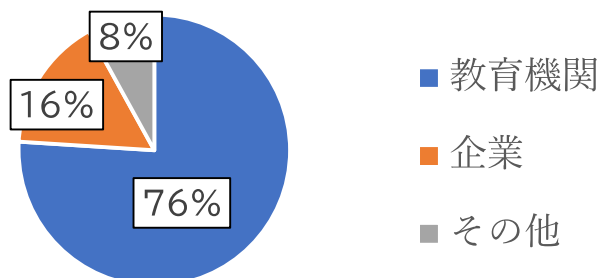
(主な回答)

- ・ PTA会長に自治連合会役員として参加してもらい、PTA会長退任後、活動の担い手になってもらっている。また、熱心な自治会長にも退任後に役員になってもらえるよう勧奨している。
- ・ 小学校や中学校と連絡を密に取ることで、父母の方に地域活動に興味を持ってもらい、協力が得られやすい状況を作っている。それを契機に、自治会への加入者が増えることを望んでいる。
- ・ 自治会長等に若手を登用し、経験を共有することで、次世代の担当者育成を進めている。

- ・ 町内会役員の輪番制から、希望委員（役）グループ参加型に変更し、毎年各委員会から代表を選出している。一人一人の責任から団体となるので、町内会に参加しやすく、情報共有しやすい。
- ・ 広報物配布時に声掛けを行っている。短い時間ではあるが、非常に有効である。
- ・ 市政協力委員のほとんどが1年任期のローテーションとなっているが、任期中の使命感を維持していただくよう努めている。
- ・ 地域活動の効率化や負担軽減について検討した結果、祭りでの舞台設営を有志から業者設営へ変更し、費用の一部を地域企業に協賛してもらっている。
- ・ 地域のことを知ってもらうため、社会福祉協議会や各種団体と共に広報誌を発行している。
- ・ 学区内を3ブロックに分け、各役員をブロック長として地域との細やかなコミュニケーションが取れるようにしている。
- ・ 社会福祉協議会、民生委員協議会、自治連合会や市政協力委員で連携し、高齢者へ長寿のお祝い品をお届けする企画を検討している。
- ・ 各種団体のデータをクラウド上に保存し、役員が広く活用できるようにしている。

(3) 良好な地域に関わる主体（市民活動団体、企業、大学等）と連携して活動している事例や、今後連携したいと考えている取組はありますか。

大学をはじめとする教育機関との連携に関する回答が最も多く、回答者の約8割が記述されていた。次いで、企業との連携に関する回答について、回答者の約2割が記述されていた。



(主な回答)

【教育機関との連携に関すること】

- ・ 大学生や留学生に地域のお祭りや運動会、清掃活動、見守り活動等へボランティアとして参加してもらっている。ただ手伝ってもらうだけでなく、学生の活動報告の場を設けたり、お祭りでブース出展してもらうなど、双方にメリットがある関係を築いている。
- ・ 地元小学校の「総合的な学習」の授業内で、小学生とオンラインで意見交換を行っている。
- ・ 小中学校と連携し、見守りパトロール隊や清掃活動、授業で地域の魅力を語る活動を行っている。
- ・ 中学校と連携し、P T Aに参加している父母との交流を図るため、意見交換会を予定している。
- ・ 総合支援学校と各種ベントで協働している。

【企業との連携に関すること】

- ・ 企業、店舗、文化人等を含む方々と新しいスタイルの保勝会の結成や、店舗と自治会員が連携した新しい取組を検討している。
- ・ 地元のホテルに協力依頼を行い、各種イベント等へ協力してもらっている。
- ・ つながりのある企業による専門的な講習等のイベントを開催。企業は宣伝にもなり、双方にメリットがある。
- ・ 今後、地域にある大型ホテルと連携し、災害時における避難場所提供等の協力体制を整えていきたい。

(4) アフターコロナを見据え、地域活動に取り組むに当たり、本市からどのようなサポートがあると良いと思われますか。

(主な回答)

- ・ スマートフォン等情報機器の操作を知らない方が多いため、サポートしてもらえそうな機会があれば良い。
- ・ 市政協力委員の役割について理解を深めるために、スマホによる情報伝達、高齢者にも見やすく分かりやすいものを考えてほしい。
- ・ 地域活動へ興味を持ってもらえるよう、参考例として、活発に活動されているほかの自治会や町内会活動を、ラインやホームページ、テレビ等を活用し、若者から高齢者までわかりやすく発信するとともに、活性化に向けたサポートをして欲しい。
- ・ 地域に対してタブレット端末の貸出等があれば、リモート会議が実施できると思う。
- ・ イベントで使用できる非接触式体温計等の貸出を行って欲しい。また、活動時に医師や看護師の派遣を受けられると良い。
- ・ すべての学区民が地域の取組や行事が把握できるよう、各区役所内に各学区のページを作って欲しい。
- ・ 助成金や他学区の活動事例等を含めた様々な情報の提供が欲しい。
- ・ 地域の問題の明示化、地域活動の簡略化に向けた指導を行って欲しい。